



【日本―フランス】第1ピリオド2分に先制ゴールを決めた日本のFW伊藤選手（右から2人目）。FW浮田選手（右）らと共に喜ぶ

スマイルJ五輪へ好発進

アイホ最終予選 フランスに7―1

【苫小牧】2026ミラノ・コルティナ冬季五輪の出場権を懸けた、女子アイスホッケーの最終予選（グループG）が6日、nepiaアイスアリーナで開幕した。日本（世界ランキング7位）と中国（同12位）、フランス（同13位）、ポーランド（同20位）の4カ国が、総当たりのリーグ戦で首位のみに与えられる本戦の切符を争う。日本は初戦

でフランスを7―1で破り、好スタートを切った。

（関連記事11面に）

日本代表23選手のうち、釧路の女子アイスホッケークラブチーム「Daishin」からはGK川口莉子（20）、DF佐藤虹羽（18）、FW野呂里桜（20）、FW野呂莉里（20）、FW浮田留衣（28）の5選手に追加招集の多田藍選手（18）も加わり計6人が出場する。

釧路関連選手はDF入里亜矢可（30）||リンシエーピングホッケークラブ（スウェーデン）||、DF細山田茜（32）||道路建設ペリグリン||、DF関夏菜美（24）||SEIBUプリンセスラビッツ||、FW伊藤麻琴（20）||TOYOTA CYGNUS||がおり、釧路在住・関連選手は全10人。6日は2試合を実施。日本はフランスと対戦し、終

始試合の主導権を握って、7―1で圧勝した。先制ゴールを決めた釧路市出身の伊藤選手は、大学進学を機にDaishinから苫小牧のTOYOTA CYGNUSへ移籍。代表では釧路時代から慣れ親しむ浮田、佐藤の両選手らと第1セットで活躍し「決めてやろうという気持ちでプレーした。若手としてチームを勢いづけることができた」と笑顔を見せた。

次戦は8日午後3時30分からポーランドと激突する。「一戦一戦集中して戦い、オリンピックの切符をつかみ取る」と宣言した。

（鈴木大聖）